



実現に全力！  
アフターコロナ見据え  
つ輝き続ける北斗市の

北海道議会議員

# 滝口直人

た き ぐ ち な お と

いまだに感染拡大が止まらない新型コロナウイルスから道民の生活と経済、社会を守るため、私が所属する自民党・道民会議議員会では総力を挙げて対策に取り組んでいます。昨年秋の第3回道議会定例会で、コロナ禍で外国人材の確保に苦しむ企業への支援などについて道の対応をたしました。

## ごあいさつ

北斗市民の皆さま、今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。コロナ禍で迎える新年となりましたが、医療現場で奮闘されている方々への感謝を胸に、一日も早い事態の収束を目指して全力を挙げて取り組んでまいります。

市民の皆さまの声を大切に、その思いを北斗市、そして道南、北海道の発展につなげるべく、道議会議員として活動し、まもなく任期の折り返し点を過ぎようとしています。鈴木直道知事をはじめとする理事者側との議会でのやり取り、自民党・道民会議議員会の同僚議員との活発な意見交換や道内各地の視察など、道政課題を一つでも多く解決するため、日々汗をかいています。

現在、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」を見据えた取り組みが喫緊の課題となっています。そうした中で、北海道の新たな玄関口である北斗市が持つ可能性は、本道が大きく飛躍するための鍵となります。この可能性を花開かせるために力を尽くしてまいります。

コロナ禍を克服し、今年が皆さまにとって新たな希望を見出す一年となることを祈念いたしますとともに、より一層のご指導とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

北海道議会議員 滝口 直人

## 万全のコロナ対策講じ、各団体の要望を聴取

私が所属する自民党・道民会議が、各種友好団体の要望や提言を来年度の施策や予算に反映させるために毎年開催している「団体政策懇談会」。昨年は10月7～9日に開かれ、私も3日間参加しました。経済、1次産業、医療・福祉、教育など各分野の39団体が出席。今年は新型コロナ感染防止のため、2会場に分かれて意見や要望を伺いました。



### 滝口 直人プロフィール

- 昭和30年／上磯町生まれ ■昭和43年／上磯小学校卒業 ■昭和46年／上磯中学校卒業 ■昭和49年／北海道函館中部高校卒業 ■昭和54年／小樽商科大学商学部卒業 ■平成14年／上磯町総務課長 ■平成18年／北斗市総務課長 ■平成20年／北斗市市民部長 ■平成22年／北斗市副市長 ■平成31年／北海道議会議員に初当選
- 現在、道議会自民党・道民会議政策審議委員、農政常任委員、人口減少問題・地方分権改革等調査特別委員、党道連副幹事長など
- 趣味：読書 ●尊敬する人物：両親 ●好きな言葉：誠実

## 道政だより 令和3年新春号

北海道議会議員 滝口直人事務所

〒049-0161 北斗市飯生2丁目8-1 アピアビル1階D号室  
TEL (0138) 86-5518 FAX (0138) 86-5519  
E-mail : takiguchijimusyo@hotmail.or.jp

# コロナ禍の企業支援、道政課題の解決へ、道の対応を促す!

令和2年第3回定例会(9月8日~10月2日)で一般質問に立ち、新型コロナウイルスの影響で外国人技能実習生をはじめとする外国人材の確保に苦しむ企業への支援や地域の人材確保、原子力防災対策の強化など、本道の多岐にわたる課題について道の取り組みをたどりました。11月に開催された決算特別委員会でも感染症対策をはじめとする道政の重要課題について道の対応を問いました。

## 道政報告 令和2年第3回北海道議会定例会 一般質問(要旨)

### 外国人技能実習生受け入れ企業の支援について

**滝口議員** 新型コロナウイルスの影響で本道でも外国人技能実習生の受け入れが困難となり、水産加工業や農業の現場に大きな影響が出ている。国は7月末に外国人の入国規制を一部緩和したが、窓口は成田、羽田、関西の3空港に限られ、到着後14日間は公共交通機関を利用できない。本道に移動するには空港近くの宿泊施設に14日間滞在しなければならない、受け入れ企業にとって滞在費用が大きな負担になっている。道は今定例会の補正予算案に経費負担の一部を支援する事業を盛り込んだが、円滑な入国と実習の実現にどう取り組むのか。

**鈴木知事** 国や市町村、受け入れ企業、関係団体が参画する会議を新たに設置して現状や課題を共有するとともに、好事例の情報発信や効果的な支援策の検討など、受け入れ環境の一層の整備に向け、連携して取り組む。

### 地域の人材確保・育成について

**滝口議員** 平成31年度の地域おこし協力隊の定住状況に関する総務省の調査では、全国で任期を満了した隊員の約6割が地域に定住し、同一市町村に定住した4割弱が起業している。北海道は定住率が他都府県より高く約7割にあたる496名が定住している。地域おこし協力隊への認識と定住支援にどのように取り組むのか。

**鈴木知事** 地域おこし協力隊は任期終了後の定住、起業、就農など、道内各地の活性化に大いに貢献している。今後も隊員へのサポートはもとより、定住につながった成功事例の共有を図るなど、市町村へのきめ細かな支援により、隊員の能力が最大限発揮され、多くの定住につながるよう取り組みを進めていく。

### 原子力防災対策の強化について

**滝口議員** 泊原子力発電所で万一事故が発生した場合の住民の効率的な避難に必要な避難道路の整備について、避難路の複線化や拡幅整備の必要性などの検討をどのように進めていくのか。

**鈴木知事** 避難経路の整備に向けて、これまで国に要請してきたが、道として今後とも地元市町村と連携し、必要な予算確保に取り組むなど、避難道路網の整備を着実に進めていく。

### 日本海溝・千島海溝沿い巨大地震の津波想定について

**滝口議員** 国が公表した津波想定では、道内太平洋岸の11市町に最大20メートル以上の津波が到達し、24市町の役場庁舎が水没すると予測している。国は一時避難所として道路の高架を活用するための財政支援などを打ち出しているが、知事の高架活用に対する認識や市町村が高架を一時避難所とする場合の取り組み、市

町村と連携して災害弱者対策をどのように進めていくのか。

**危機管理監** 道路の盛土や橋梁などの高架区間を一時避難場所として活用することは防災上有効。国は高架区間に階段や待避スペースを整備するなどの取り組みを進めており、道として市町村と連携し、道道においても検討していく。高齢者や障がい者等の避難については、これまで避難行動要支援者名簿の活用や要配慮者ごとの避難計画策定に向けて市町村の取り組みを促してきた。今後も市町村への助言を行い、国の検討も踏まえ避難の実効性が確保されるよう取り組む。

### その他の質問項目

#### ●子どもの健やかな成長を推進する計画について



## 道議会決算特別委員会(11月9、10、11日) 質問要旨

### 感染症対策について

**滝口議員** 新型コロナの感染拡大とインフルエンザの流行が重なれば、医療機関に相当の負担がかかる。本道の広域性を踏まえた状況の受け止めとピーク時に向けた取り組みをどのような考えているのか。

**健康安全局長** 発熱患者が適切に診療・検査を受けられるよう、道医師会や市町村と連携し、10月末までに各地域で診療・検査医療機関を626カ所指定した。今後とも医師会や市町村などと連携を深め、地域の診療・検査体制のさらなる整備を促進していく。

### その他の質問項目

- 電気事業会計について
- 工業用水道事業会計について
- 水道事業について
- 国民健康保険事業について
- 循環型社会形成の取り組みについて
- アイヌ施策の推進について
- 子どもの貧困対策について
- 女性活躍の推進について
- 地域づくり総合交付金について
- ICT利活用推進事業について
- 多文化共生社会形成推進事業について